

令和4年10月12日

市政担当記者各位

第20回「花と緑のまちづくり賞」 受賞者決定について

花と緑によるまちづくり活動に顕著な功績があり、市民共働のまちづくりに積極的に取り組む団体を表彰する「花と緑のまちづくり賞」が決定しました。

審査にあたっては良好な環境づくりに加え、他の模範となる活動について、書類による予備審査、現地およびヒアリング調査を行い、令和4年7月5日の最終審査の結果、本年度の受賞団体が決定しました。

●「花と緑のまちづくり賞」について

- (1) 表彰対象
「都市緑化及び都市公園保全美化運動並びに花と緑のまちづくりの推進に功績のあったものに対する市長表彰」の「花と緑のまちづくり地域活動功労者」を受賞した団体のうち、活動を5年以上継続している団体。
- (2) 対象団体数
花づくりの活動団体、緑の保全管理団体合わせて148団体。
- (3) 審査
詳細は別紙のとおり
- (4) 受賞団体及び総評
別紙のとおり
- (5) 発表方法等
協会ホームページに掲載するとともに、リーフレットを制作します。
- (6) 表彰式
日時 令和4年10月29日（土）10時30分
場所 警固公園「一人一花サミット」会場

(問合せ先)

公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 みどり課企画推進係 (担当 倉橋・肥後谷・原)

TEL 092-822-5832 FAX 092-822-5848

電子メール ks@midorimachi.jp

● 第20回「花と緑のまちづくり賞」受賞団体

別紙

ぐりーんぱんだ

活動場所	城南区七隈1丁目11(七隈緑地) 0.97ha
会員数	15名
結成	平成24年
活動頻度	竹林整備 月2回 主に秋～春 放置竹林の竹の伐採、タケノコの駆除、落ち葉の堆肥化、下刈り、四季の自然観察会(年4回)、竹工作(門松、竹の水鉄砲など)
活動のきっかけ・目的	「花と緑に囲まれた豊かな生活環境を創出するとともに、ちっちゃいこどもからおばあちゃん、おじいちゃん世代の親睦交流を深め、緑あふれるまちづくりを推進すること」を目的に2012年に自然が好きな会員で立ち上げた。現在、竹林整備や自然観察会、竹を使った工作などの活動を通じて、地域や多世代・他団体との交流を深めている。

■評価された点 ～森を育て、人を育てる 緑地保全を通して広がる多彩な活動～

竹が繁茂して鬱蒼としていた七隈緑地が、竹の伐採やタケノコ駆除を継続して行うことで明るいフィールドへ生まれ変わっています。伐採した竹や樹木を散策路や工作に使用する、落ち葉を堆肥化するなどのSDGsを実践するとともに、環境教育としてそれらの取り組みを紙芝居やパネルで子どもたちへわかりやすく伝えています。

また、会の活動は七隈緑地だけでなく市内の公園、小学校などにも広がっており、活動ではボランティアスタッフが運営に参加しています。親子連れの参加者が多く、ボランティアスタッフが別の地域で森づくりを始めるなど、森と地域を育てるとともに、将来森づくりに関わってくれる人材を育てているという点も高く評価されました。



市民緑化活動グループ「わたしの木」

活動場所	早良区曲淵道添 449-1 外、飯場ハシノヲ 398 外 4.5ha
会員数	13名
結成	平成23年
活動頻度	定例作業 月2回(花木の植樹 年2〜3回、竹除伐、下刈り 年4〜5回、周回路周辺の不要木の伐採 適宜、自然観察会 年3回)
活動のきっかけ・目的	緑のコーディネーター養成講座の同期生で里山保全を目的として活動フィールドを模索。平成22年に福岡市水道局と「福岡市水源の森づくり共働事業」協定を結び涵養林を守り育て“美味しい水を飲みたい”とボランティア活動を開始。 福岡市内水道水の水源となっている早良区曲淵水源かん養林において、福岡の緑、地域の緑のあり方を考え、守り育てる活動に取り組み、自然を大切にすることを育むこと目的として活動を継続している。

■評価された点 ～福岡市内水道水の水源となる森を守る～

福岡市内水道水の水源となっている森林を守るという大きな志のもと、竹除伐、下草刈りを中心とした森林整備を継続して行っています。活動開始当初は竹に浸食されていた森林が、現在ではヤマザクラやイチヨウ並木が現れ、明るい広葉樹の森へと変貌を遂げたことが高く評価されました。

また、伐採した竹は水鉄砲、門松、竹灯籠などの材料にし、資源の再利用にも取り組んでいます。その他にも、自然観察会や森林整備の体験会、水でつぼう講座、門松づくり講座など、子供から大人まで様々な年代の人を対象として行っている活動は、「水源涵養林」を守り、創り、育てることの大切さの普及につながっています。



ふくおか花と緑の連絡会

活動場所	東区原田4丁目(箱崎公園内花壇) 30㎡
会員数	39名
結成	平成16年
活動頻度	花壇定例作業 月1回(植替え…年3回+補植、草取り…月3回、水やり…夏は2日おき、秋以降は随時)、ネイチャーウォッチング月1回、クラフトサークル 月1回
活動のきっかけ・目的	福岡市緑のコーディネーター取得後、近隣の花壇作りに参加。その後、箱崎公園は大きな公園なのに花壇がないことを知り、来園者に四季折々の花が咲く癒しの場所を提供したいと思い花壇づくりを始めた。 花壇に花と緑を植栽し、地域の癒しと交流の場とすること、花と緑を通して「いきがい」づくりの場を提供することを目的に活動。

■評価された点 ～花壇、ネイチャーウォッチング、クラフト…多種多様な人材の集まる団体～

当会の花壇は多くの人が利用する箱崎公園の入口にあり、多年草や一年草が花壇の環境に合わせてバランス良く配置され、四季折々の花が来園者をむかえてくれます。

また、緑のコーディネーターを中心に多彩な人材が所属しているため、花壇づくりの他にもネイチャーウォッチング、花に関するクラフト講座など様々な内容の依頼に対応できる体制が整っており、イベントへの出展や公民館、学校、留守家庭子ども会等で開催される講座の講師など幅広い活動を行っています。活動を通して得た知識や経験を、会員がそれぞれのフィールドで発揮している点が高く評価されました。



●入選団体



今津元寇防塁・松原愛護会



梅林ガーデングラブ



おおまち自然と緑を楽しむ会



和白東自治協議会オアシス「花かご」

●総 評

今年は森の活動が目を引きました。曲渚で活動されている「市民緑化活動グループ「わたしの木」」は、水源涵養林である活動区域内の竹林化を食い止めることに成功されました。この大仕事がわずか 13 名のボランティアによってなされたことに驚きを禁じ得ません。福岡は水資源に恵まれない都市です。感謝と敬意を表するとともに今回の受賞が後継者増につながることを願っています。「ぐりーんぱんだ」は住宅街の保全緑地で竹林整備や自然観察会などの活動をしています。活動には、地域に住む親子が参加し、得意分野を持つ会員が指導しています。会員の打合せは、オンラインで行うなどこれからの運営方法として注目です。また、「ふくおか花と緑の連絡会」は花壇以外にも活動メニューがいろいろとあり、多様な人材が集まっています。このような従来にはなかった組織運営が活動を継承し裾野を広げており、ボランティア新時代を予感させます。

一方、古くから地域で大切に培ってきた防塁跡の松林維持活動は、地域を超えて福岡を代表する海辺の風景を形作っています。このように福岡の森林や花にあふれる街角は「花壇あれば花団体あり」と言えるほど多くの団体によって支えられており、このことはもうすでに「一人一花」が福岡に根付いていることを証明しているのかもしれません。

審査委員長 高宮 さやか



● 審 査

	工程	内容	日程	対象団体数
1	審査対象団体選出	実施要領に基づき選出	—	148 団体
2	事務局予備審査	書類審査	令和 4 年 5 月 13 日	148 団体→ 7 団体
3	事務局調査	現地調査、ヒアリング調査	令和 4 年 5 月～6 月	7 団体
4	審査委員審査	書類審査、現地審査	令和 4 年 7 月 5 日	7 団体→ 3 団体

- 【審査委員】
- ・西日本短期大学 教授 高宮 さやか氏（委員長）
 - ・エコマルシェオニヅカ株式会社 代表取締役 井上 盛博氏
 - ・有限会社グリーンハウスベル 代表取締役 鐘ヶ江 奉一氏
 - ・福岡市住宅都市局一人一花推進部 一人一花推進課長
 - ・公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 みどり課長

